FVL/LNX 導入の手引き vol.1
セットアップ編

☆第１版☆

㈱ファースト

（株）ファーストは、同社が提供していない装置における同社製ソフトウェア・ハードウェアの使用または信頼性についてはいかなる責任も負いません。(株）ファーストは本書で記載されているソフトウェア・ハードウェアの内容、商品価値、又は特定の使用目的に対する責任に対して明示又は黙示に関わらずいかなる保証も行いません。

本書の内容は、予告なしに変更することがあります。内容の変更について、(株）ファーストはいかなる責任も負いません。本書あるいは関連ソフトウェアにおける誤りから生じる損害について、(株）ファーストはいかなる責任も負いません。
本書の内容の一部または全部を転載することは固くお断りします。

Copyright 2008
(株)ファースト
All Rights Reserved
Printed in Japan

御注意

◎Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の商品名です。
◎Intel, MMX, Pentium は、米国 Intel Corporation の登録商標です。
◎その他、文中における会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。
◎文中では 商標シンボル((R)、(TM)、(C) 等)の表記は省略致します。

目　次

1．はじめにお読み下さい……1
1.1 本ドキュメントについて……1
1.2 関連ドキュメントについて……1
1.3 システム全体の構成……2
1.4 ユーザプログラム開発用 PC 推奨システム……2
1.4.1 FXcc, FXcc IDE ----2
1.4.2 FVTerm ----2
1.5 開発環境について……2
1.6 サポートするハードウェアについて……3
1.7 ユーザ登録について……3
1.7.1 ユーザ・サポート ----3
1.7.2 アップグレードのご案内 ----3
1.7.3 個人情報取扱の基本方針（利用目的） ----3

2．セットアップしましょう……5
2.1 セットアップの流れ……5
2.2 セットの確認……5
2.3 ライブラリのセットアップ手順について……6
2.3.1 SETUP の実行----6
2.3.2 パスワードの入力 ----7
2.3.3 インストール先の選択 ----7
2.3.4 インストールの実行 ----8
2.3.5 インストールの完了 ----8
2.4 開発環境のセットアップ手順について……9
2.4.1 FXcc のインストール----9
2.4.2 FXcc IDE のインストール----12
2.5 ホスト通信プログラム FVTerm のセットアップ手順について……15
2.6 バージョンアップについて……18
2.6.1 ライブラリのバージョンアップについて----18
2.6.2 FXcc のバージョンアップについて ----18
2.6.3 FXcc IDE のバージョンアップについて ----18
2.6.4 ホスト通信プログラム FVTerm のバージョンアップについて ----18
2.6.5 システムプログラムのバージョンアップについて----18
2.7 アンインストールについて……21
2.7.1 ライブラリのアンインストールについて----21
2.7.2 FXcc のアンインストールについて ----21
2.7.3 FXcc IDE のアンインストールについて ----21
2.7.4 ホスト通信プログラム FVTerm のアンインストールについて ----21

目　次

3．動作確認をしてみましょう ····· 23
3.1 画像処理装置の設定(画像入力) ····· 23
3.2 画像処理装置の設定(通信パラメータ) ····· 26
3.3 ユーザプログラム開発用 PC の設定(通信パラメータ) ····· 29
3.4 サンプルプログラムのビルド ····· 32
3.5 サンプルプログラムの転送 ····· 35
3.6 サンプルプログラムの動作確認 ····· 38

4．困ったときは ····· 41
4.1 トラブルシューティング ····· 41
4.2 ユーザサポートについて ····· 41

1. はじめにお読み下さい

この度は、FAST Vision Library for LNX(FVL/LNX)をご購入頂きまして誠にありがとうございます。

1.1 本ドキュメントについて

本書ではFVL/LNXを正しくお使い頂くために、セットアップの方法、セットアップ後の動作確認の方法などFVL/LNX導入時に最初に行って頂く作業について解説しています。
なお、本書はVer2.20以降に対応しています。

1.2 関連ドキュメントについて

FVL/LNXに関連したドキュメントをご紹介いたします。

①リリースノート
FVL/LNXのソフトウェアおよびハードウェアに関する情報が記載されています。

②FV2200取扱説明書、FV2300取扱説明書、FV1100取扱説明書
FV2200-LNX、FV2300-LNXおよびFV1100-LNXのハードウェアに関する情報が記載された取扱説明書です。

③各種ボートの取扱説明書
FV2200-LNX、FV2300-LNXに搭載可能なファースト製各種ボードのハードウェアに関する情報が記載された取扱説明書です。

④FVL/LNX操作説明書
FV2200-LNX、FV2300-LNXおよびFV1100-LNXに搭載されているシステムソフトの操作についての説明書です。

⑤FVL/LNX導入の手引き　Vol.2　チュートリアル編
FVL/LNXを使用した画像取込からサーチ等の基本的な画像処理、画像表示やI/O制御に関するプログラミング例を中心とした解説書です。

⑥ライブラリ説明書
FVL/LNXのライブラリリファレンスはPDF形式とヘルプファイル形式(Ver2.20以降のFIEライブラリ専用)でご用意しております。

〇PDF形式のライブラリ説明書
- 90X　基本ライブラリ説明書Vol.1
- 90X　基本ライブラリ説明書Vol.2
- 90X　基本ライブラリ説明書Vol.3
- 90X　2値画像ライブラリ説明書
- 90X　濃淡画像ライブラリ説明書
- 90X　キャリパーライブラリ説明書
- 90X　ビジョン・ツール・ライブラリ説明書
- 902　高機能サーチライブラリ説明書
- 902　高分解能センサライブラリ説明書

〇ヘルプファイル形式(Ver2.2以降のFIEライブラリ専用)
- FIEライブラリ説明書

⑦FXcc, FXcc IDE操作説明書
FVL/LNXを用いてユーザプログラムを作成する際に使用するコンパイラおよび統合環境についての説明書です。

⑧FVTerm操作説明書
作成したユーザプログラムをFV2200-LNX、FV2300-LNXおよびFV1100-LNXにダウンロードするためのホスト通信プログラムの操作についての説明書です。

⑨画像処理解説書
FVL/LNXに搭載されている各画像処理手法の解説書です。アルゴリズムやパラメータについて解説しています。

1.3 システム全体の構成

①汎用画像処理装置 FV2200-LNX、FV2300-LNX または FV1100-LNX
FVL/LNX を用いて作成されたユーザプログラムを動作させる汎用画像処理装置です。画像入力ボードや I/O ボードも搭載されています。
②ユーザプログラム開発用 PC
FVL/LNX と FXcc, FXcc IDE を用いてユーザプログラムを開発するために必要です。作成したユーザプログラムは PC から画像処理装置へ通信を用いてダウンロードします。
③FVL 基本 SDK/LNX
FVL 基本 SDK/LNX は、画像処理システムを構築するために必要な画像処理ライブラリをパックにしたもので、ユーザプログラム作成時に必要なものです。ユーザプログラム開発用 PC にインストールします。
④FXcc, FXcc IDE
FVL/LNX を用いてユーザプログラムを作成する際に使用するコンパイラおよび統合環境です。ユーザプログラム開発用 PC にインストールします。
⑤FVTerm
作成したユーザプログラムを FV2200-LNX、FV2300-LNX および FV1100-LNX にダウンロードするためのホスト通信プログラムです。ユーザプログラム開発用 PC にインストールします。

1.4 ユーザプログラム開発用 PC 推奨システム

1.4.1 FXcc, FXcc IDE

FXcc, FXcc IDE を動作させる PC は次の条件を満たす必要があります。

- ●IBM PC/AT,PC/AT 互換機
- ●OS は Windows98, 2000, XP
- ●HDD に 80M 以上の空き容量

1.4.2 FVTerm

FVTerm を動作させる PC は次の条件を満たす必要があります。

- ●IBM PC/AT,PC/AT 互換機
- ●OS は Windows98, 98SE, 2000, XP
- ●HDD に 1M 以上の空き容量

1.5 開発環境について

サポートしているソフトウェア開発環境は FXcc, FXcc IDE となります。
上記以外のソフトウェア開発環境での開発はサポート対象外となりますのでご了承ください。

1.6 サポートするハードウェアについて

以下のファースト製の汎用画像処理装置、画像入力ボードおよびフォトカプラ絶縁 I/O ボードに対応しています。

『汎用画像処理装置 FV2200-LNX/A2』
『汎用画像処理装置 FV2300-LNX/M2』
『汎用画像処理装置 FV1100-LNX/S1』
『PCI バス仕様 画像入力ボード　RICE-001(a/b) 』
『PCI バス仕様 画像入力ボード　FVC02』※
『PCI バス仕様 画像入力ボード　FVC04』
『PCI バス仕様 画像入力ボード　FVC05』
『PCI バス仕様 画像入力ボード　FVC06』
『高速・高分解能デジタル画像入力ボード　FHC3310(A)』
『高分解能デジタル画像入力ボード FHC3321』※
『PCI バス仕様 フォトカプラ絶縁 I/O ボード FIO01』

※販売終了品

1.7 ユーザ登録について

当社では充分なアフターサービスとサポートをお客様に提供するために、ユーザ登録をお願いしております。製品に添付されますユーザ登録に必要事項をご記入の上、FAX にてご返送ください。ユーザ登録をされたお客様には当社からユーザ登録番号を通知いたします。ユーザ登録をいただいたお客様に限り、サポートサービスを実施させていただきます。

1.7.1 ユーザ・サポート

ユーザサポートの詳しい内容につきましては、本書の「4.2 ユーザサポートについて」をご参照ください。

1.7.2 アップグレードのご案内

ソフトウェア製品の最新バージョンリリース情報をメールにてお知らせ致します。

［既にユーザ登録がお済みの方へ］
ユーザ登録カードをご送付いただいた場合、お客様のご購入製品に関する項目などについての情報が最新の内容に更新されますので、より確実なサポートサービスが受けられます。

1.7.3 個人情報取扱の基本方針（利用目的）

当社は、ユーザ登録カードにて得られたお客様の社名・所在地・氏名・電話等の個人情報を下記のために利用し、それ以外の目的には利用いたしません。

(1) 上記第 1 項、第 2 項に示すユーザサポートサービスを行うため。
(2) 当社の情報（新製品や展示会の案内、生産終了案内など）をお送りするため。
(3) 新製品開発やサービス改善のためのアンケートをお送りするため。

2. セットアップしましょう

セットアップについて説明します。

2.1 セットアップの流れ

セットアップは以下の流れで行います。

①ライブラリのセットアップ
「2.3 ライブラリのセットアップ手順について」をご参照の上、FVL/LNX のセットアップを行います。
②開発環境のセットアップ
「2.4 開発環境のセットアップ手順について」をご参照の上、FXcc および FXcc IDE のセットアップを行います。
③ホスト通信プログラムのセットアップ
「2.5 ホスト通信プログラム FVTerm のセットアップ手順について」をご参照の上、FVTerm のセットアップを行います。
④動作の確認
全てのセットアップが完了したら、動作するかを確認します。「3. 動作確認をしてみましょう」をご参照の上、動作確認を行います。

2.2 セットの確認

セットアップの前に、以下のものがそろっているかをご確認ください。

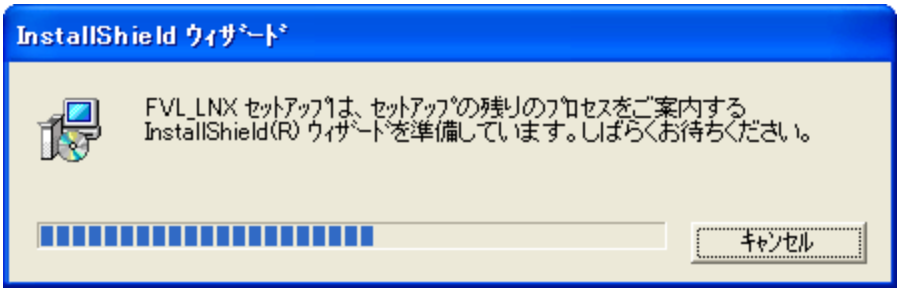
①FAST Vision Software CD
FVL/LNX の開発キットが収められている CD です。

2.3 ライブラリのセットアップ手順について

2.3.1 SETUP の実行

①CD-ROM からセットアップする場合
CD-ROM ドライブ:¥software¥FVL_LNX¥lib¥Setup.exe を実行します。
②ホームページからダウンロードしたファイルからセットアップする場合
適当なディレクトリにダウンロードしたファイルを解凍してください。解凍後 Windows のスタートメニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し Setup.exe を実行して下さい。

SETUP を実行すると以下の[画面 1]になります。



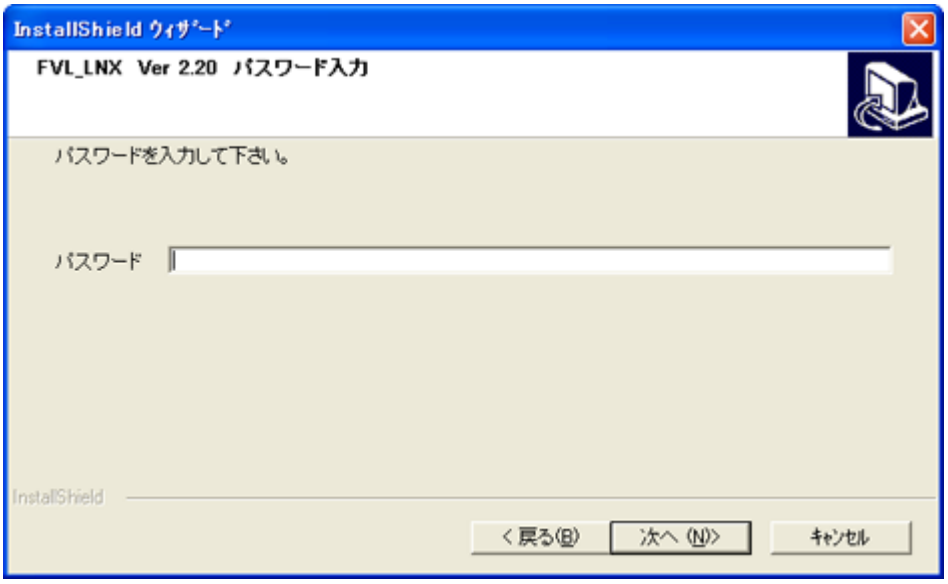
[画面 1]

インストールの準備を行いますので、しばらくお待ちください。しばらくすると表示が[画面 2]になります。

[画面 2]

「次へ」をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。

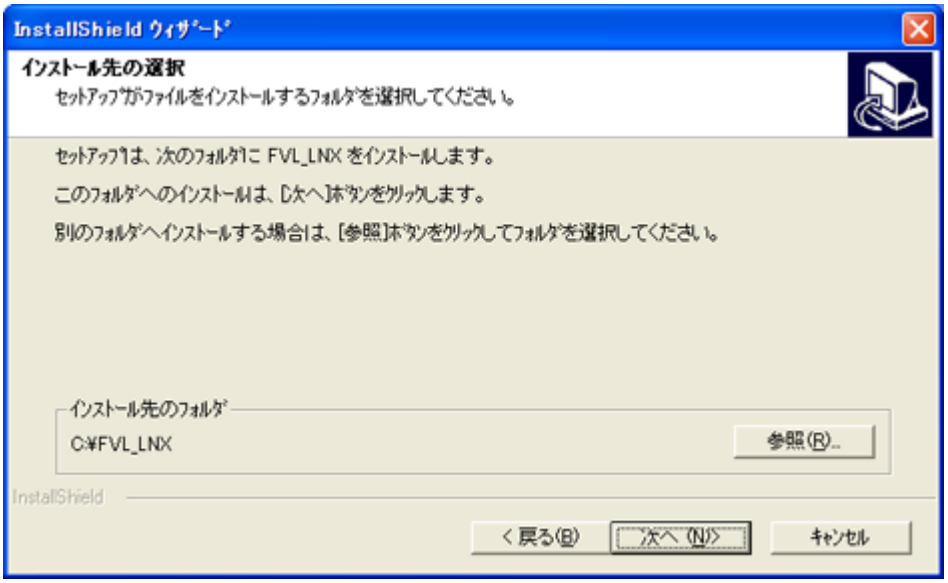
2.3.2 パスワードの入力



[画面 3]

「パスワードのお知らせ」に記入されているパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
表示が［画面 4］に進みます。

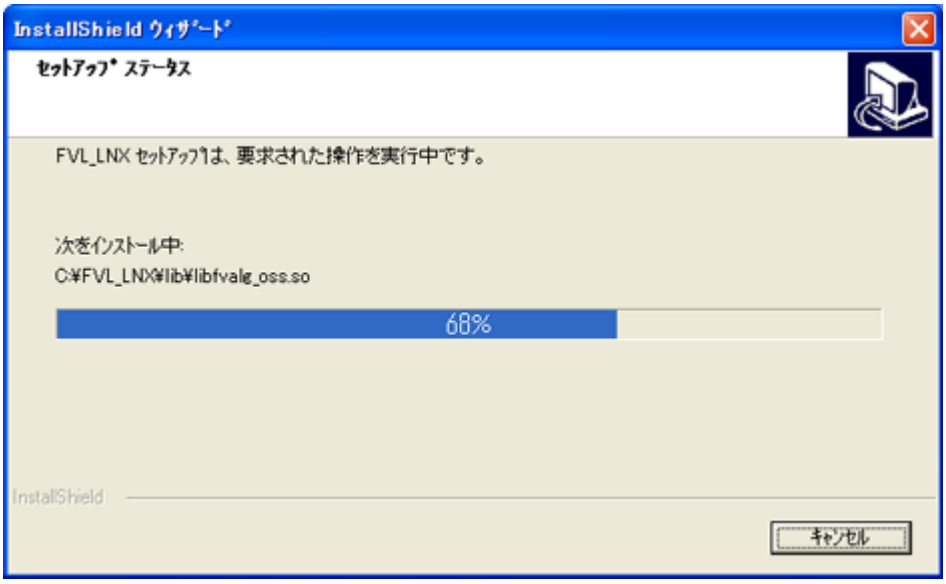
2.3.3 インストール先の選択



[画面 4]

インストール先のフォルダを設定し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 5]に進みます。

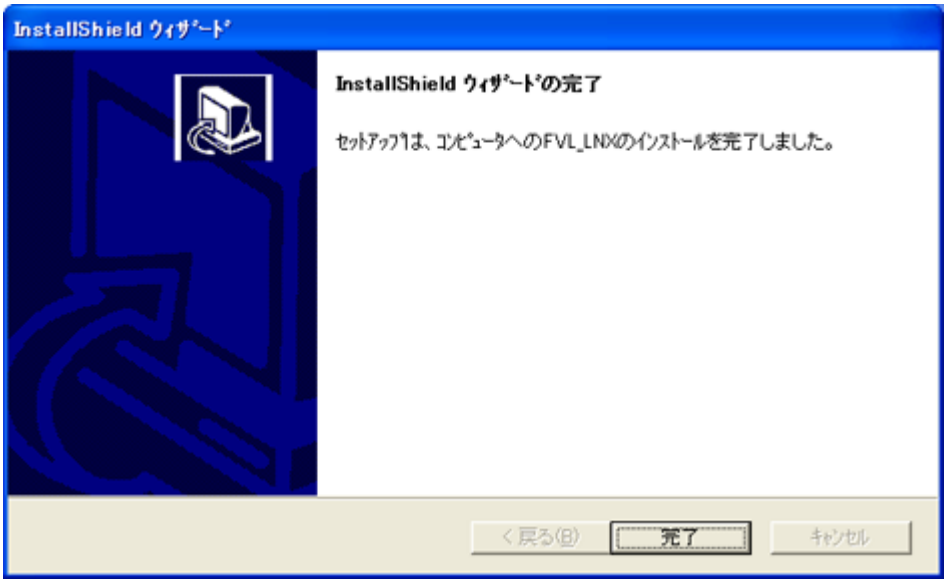
2.3.4 インストールの実行



[画面 5]

インストールが行われますので、しばらくそのままお待ちください。インストールが終了すると表示が[画面 6]に進みます。

2.3.5 インストールの完了



[画面 6]

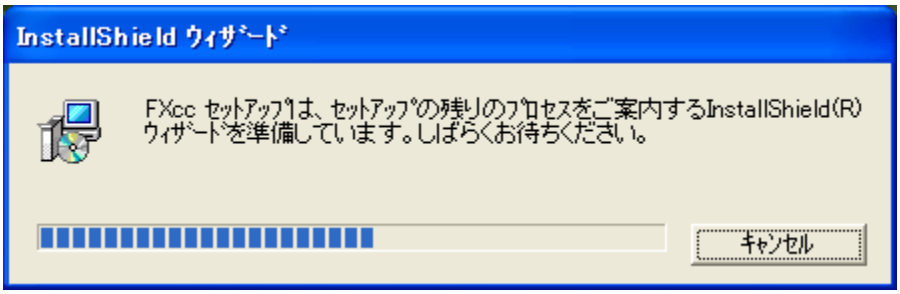
「完了」をクリックしてセットアップは終了です。

2.4 開発環境のセットアップ手順について

2.4.1 FXcc のインストール

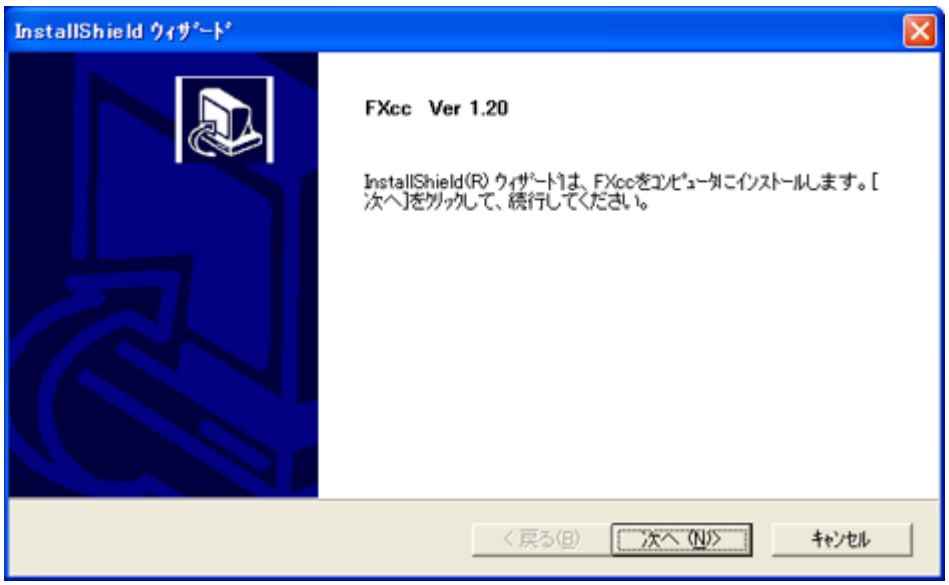
①CD-ROM からセットアップする場合
CD-ROM ドライブ:¥software¥FVL_LNX¥fxcc¥Setup.exe を実行します。
②ホームページからダウンロードしたファイルからセットアップする場合
適当なディレクトリにダウンロードしたファイルを解凍してください。解凍後 Windows のスタートメニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し Setup.exe を実行して下さい。

SETUP を実行すると以下の[画面 1]になります。



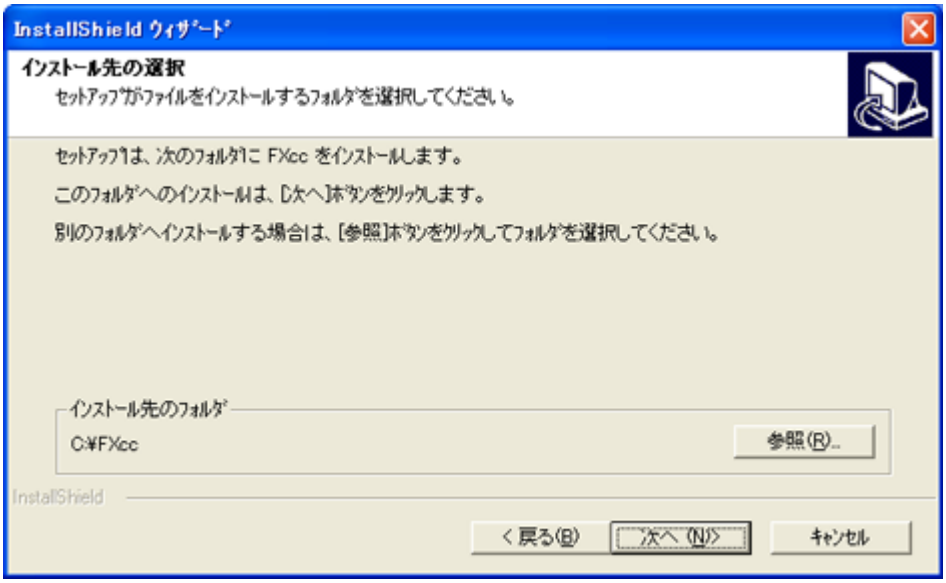
[画面 1]

インストールの準備を行いますので、しばらくお待ちください。しばらくすると表示が[画面 2]になります。



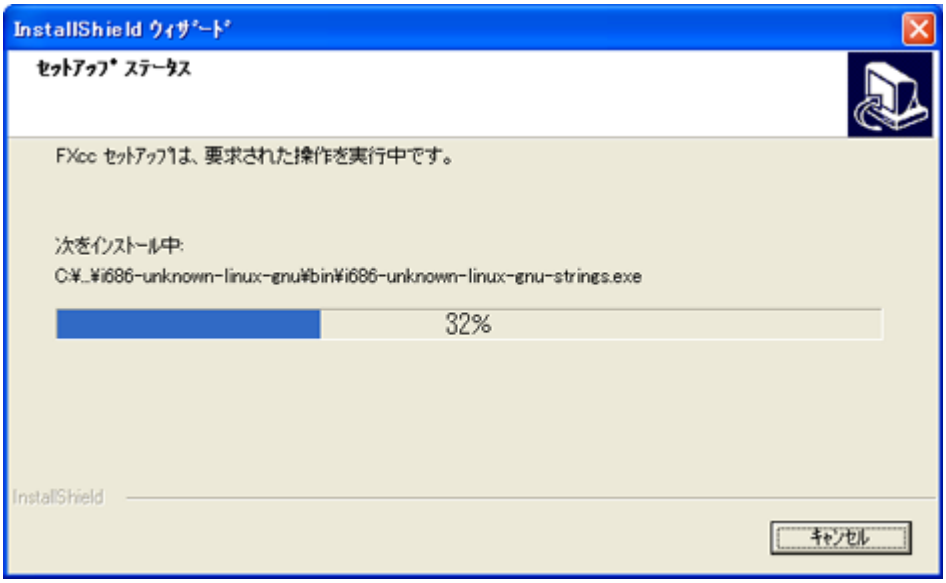
[画面 2]

「次へ」 をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。



[画面 3]

インストール先のフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 4]に進みます。



[画面 4]

インストールが行われますので、しばらくそのままお待ちください。インストールが終了すると表示が[画面 5]に進みます。

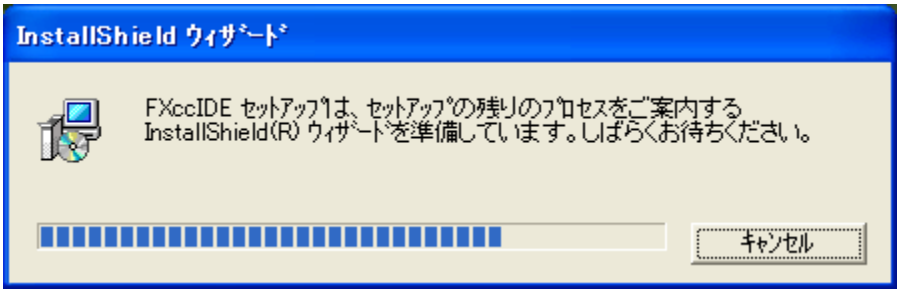
[画面 5]

コンピュータの再起動を求められますので「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックしてください。コンピュータが再起動されセットアップは終了です。

2.4.2 FXcc IDE のインストール

①CD-ROM からセットアップする場合
CD-ROM ドライブ:¥software¥FVL_LNX¥ide¥Setup.exe を実行します。
②ホームページからダウンロードしたファイルからセットアップする場合
適当なディレクトリにダウンロードしたファイルを解凍してください。解凍後 Windows のスタートメニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し Setup.exe を実行して下さい。

SETUP を実行すると以下の[画面 1]になります。

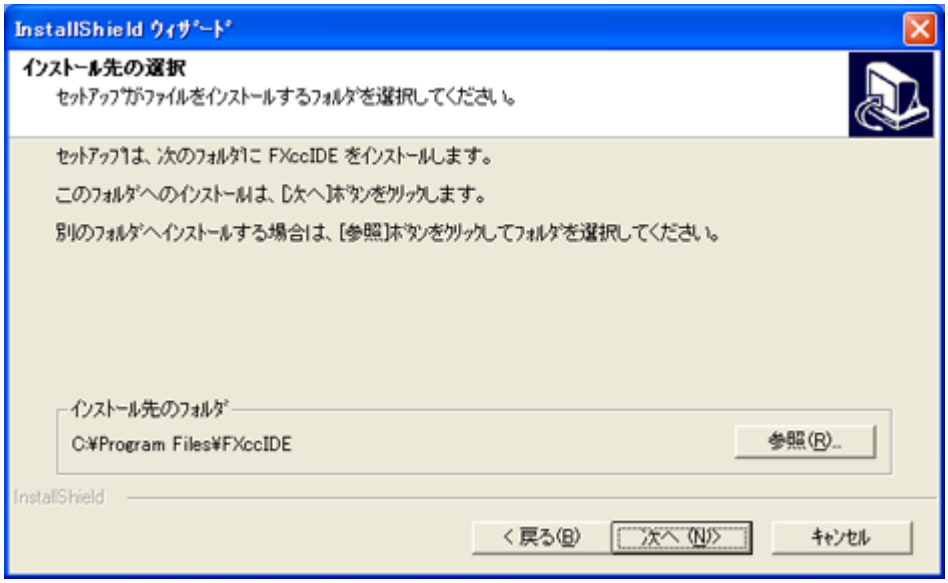


[画面 1]

インストールの準備を行いますので、しばらくお待ちください。しばらくすると表示が[画面 2]になります。

[画面 2]

「次へ」 をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。

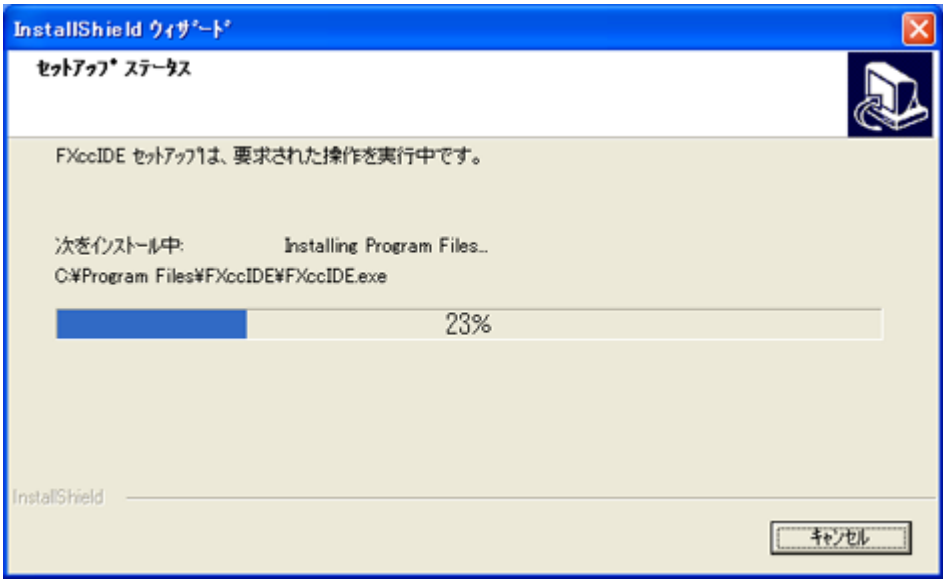


[画面 3]

インストール先のフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 4]に進みます。

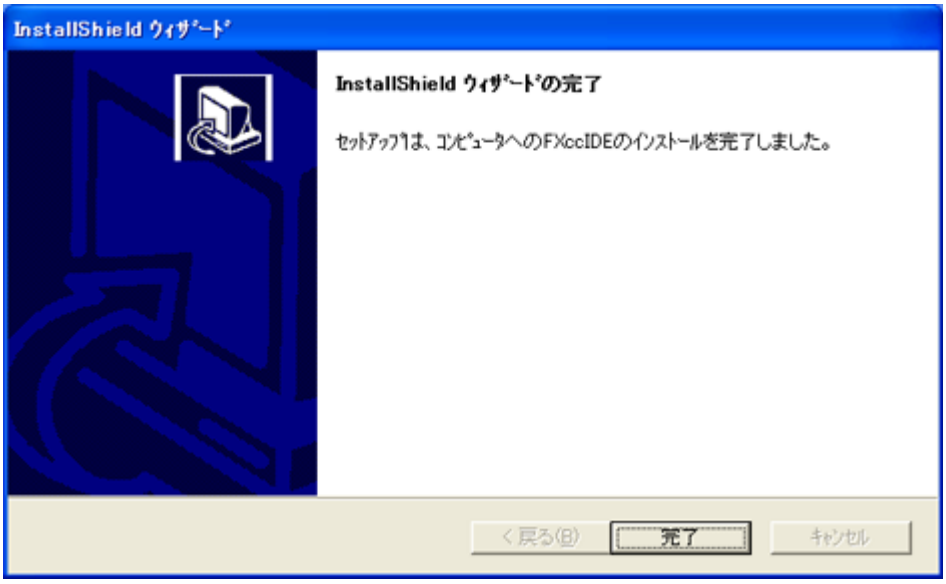
[画面 4]

プログラムフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 5]に進みます。



[画面 5]

インストールが行われますので、しばらくそのままお待ちください。インストールが終了すると表示が[画面 6]に進みます。



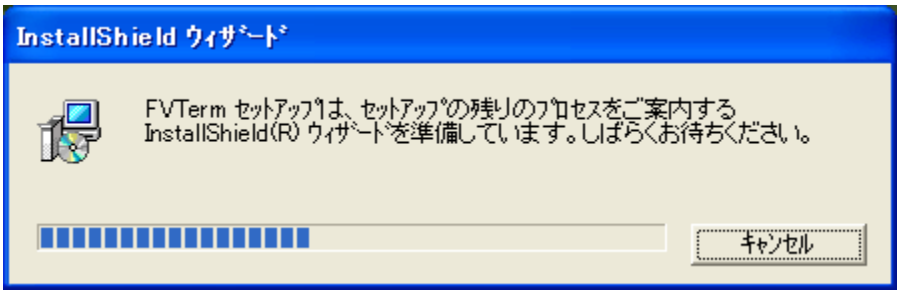
[画面 6]

「完了」をクリックしてセットアップは終了です。

2.5 ホスト通信プログラム FVTerm のセットアップ手順について

①CD-ROM からセットアップする場合
CD-ROM ドライブ:¥software¥host¥fvterm¥Setup.exe を実行します。
②ホームページからダウンロードしたファイルからセットアップする場合
適当なディレクトリにダウンロードしたファイルを解凍してください。解凍後 Windows のスタートメニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し Setup.exe を実行して下さい。

SETUP を実行すると以下の[画面 1]になります。

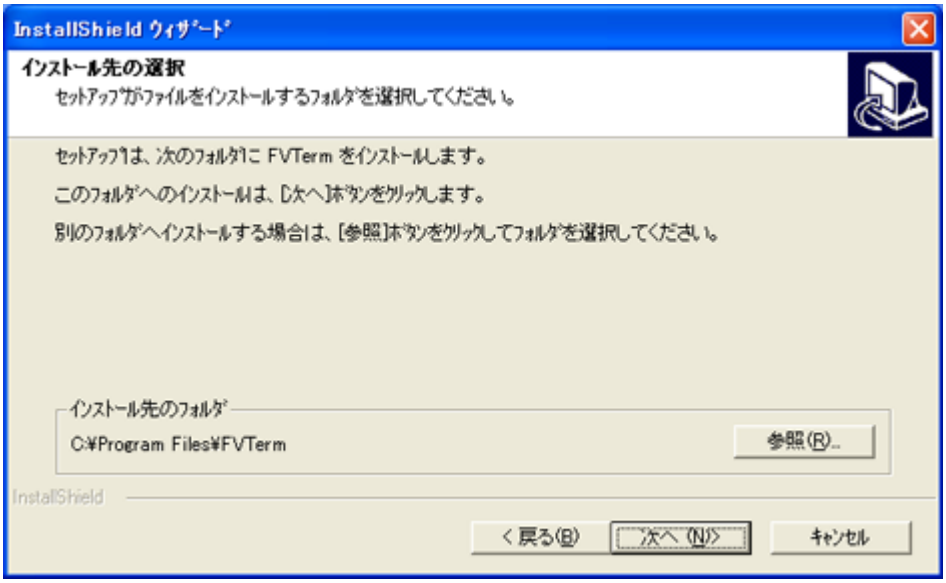


[画面 1]

ここで、しばらくお待ちください。[画面 2]に進みます。

[画面 2]

「次へ」 をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。

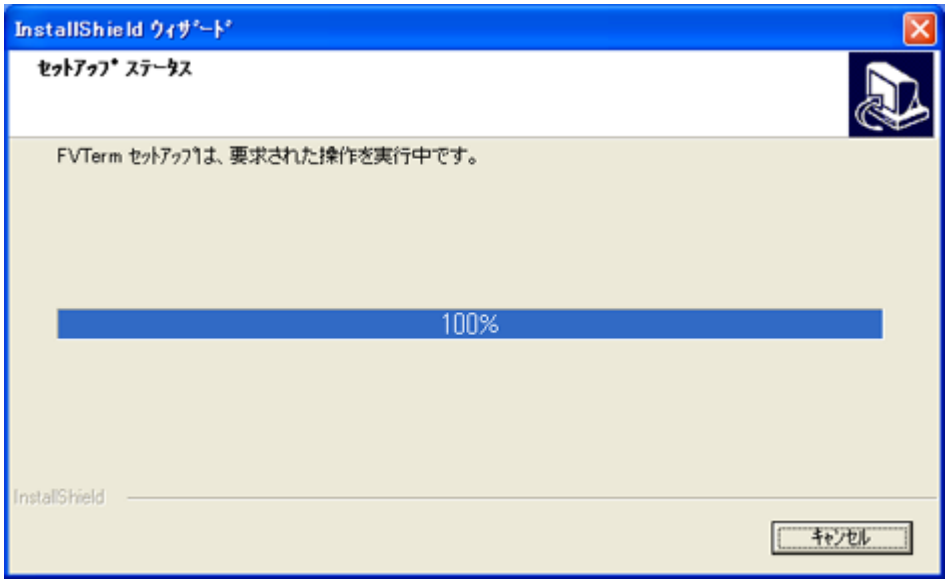


[画面 3]

インストール先のフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 4]に進みます。

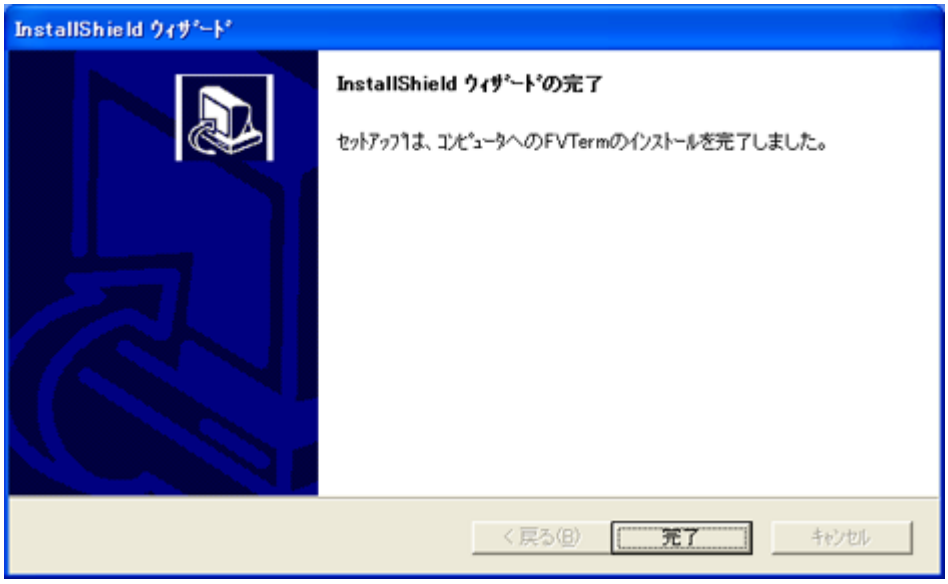
[画面 4]

プログラムフォルダを選択し、「次へ」をクリックします。表示が[画面 5]に進みます。



[画面 5]

インストールが行われますので、しばらくそのままお待ちください。インストールが終了すると表示が[画面 6]に進みます。



[画面 6]

「完了」をクリックしてセットアップは終了です。

2.6 バージョンアップについて

2.6.1 ライブラリのバージョンアップについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FVL/LNX を一旦アンインストールします。アンインストールしたら Setup.exe を再び実行します。

2.6.2 FXcc のバージョンアップについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FXcc を一旦アンインストールします。アンインストールしたら Setup.exe を再び実行します。

2.6.3 FXcc IDE のバージョンアップについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FXcc IDE を一旦アンインストールします。アンインストールしたら Setup.exe を再び実行します。

2.6.4 ホスト通信プログラム FVTerm のバージョンアップについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FVTerm を一旦アンインストールします。アンインストールしたら Setup.exe を再び実行します。

2.6.5 システムプログラムのバージョンアップについて

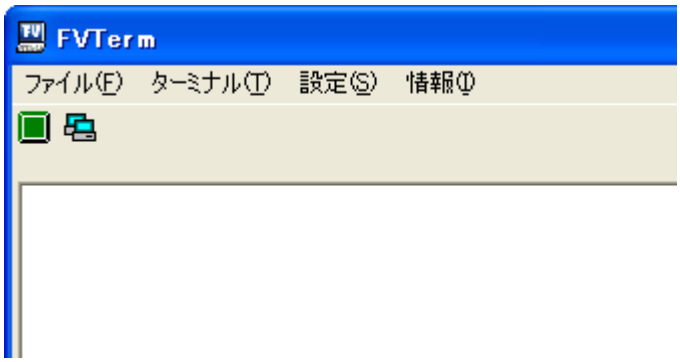
ライブラリのバージョンアップを実行したら、画像処理装置側のシステムプログラム(CF カードにインストールされています)のバージョンアップも実行する必要があります。システムプログラムのバージョンアップを実行しないとライブラリに追加された新機能はお使いいただけません。

システムプログラムのバージョンアップはホスト通信プログラム FVTerm を用いて通信にて行います。なお、バージョンアップに必要なファイルはライブラリをインストール時に同時にインストールされます。

ホスト通信プログラム FVTerm を使用してシステムプログラムのバージョンアップを行うためには、事前に FVTerm と画像処理装置の通信パラメータを設定する必要があります。通信パラメータの設定手順については「3.2 画像処理装置の設定(通信パラメータ)」および 「3.3 ユーザプログラム開発用 PC の設定(通信パラメータ)」の項目を参照してください。

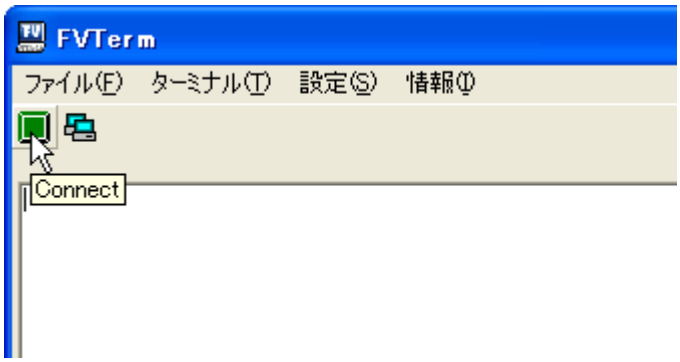
以下にシステムプログラムのバージョンアップを行う手順を説明します。

FVTerm を起動すると表示が[画面 1]のようになります。

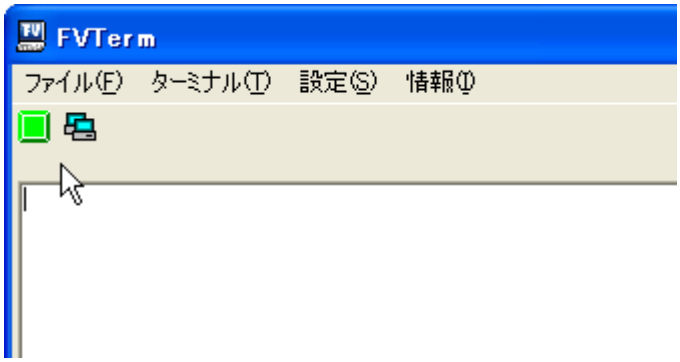


[画面 1]

FVTerm が起動したら画像処理装置と接続します。接続するには[画面 2]のようにツールバーの左端のボタンをクリックします。接続が完了すると[画面 3]のようにボタンが点灯します。

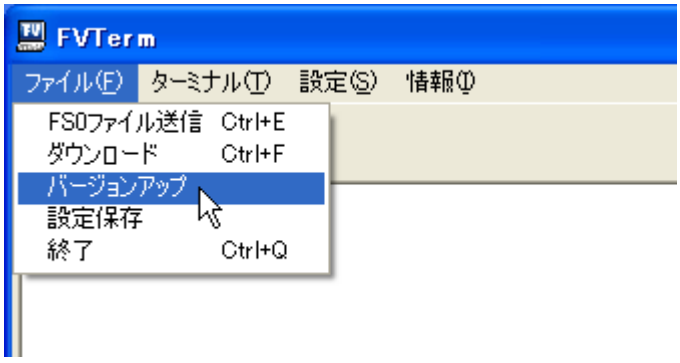


[画面 2]



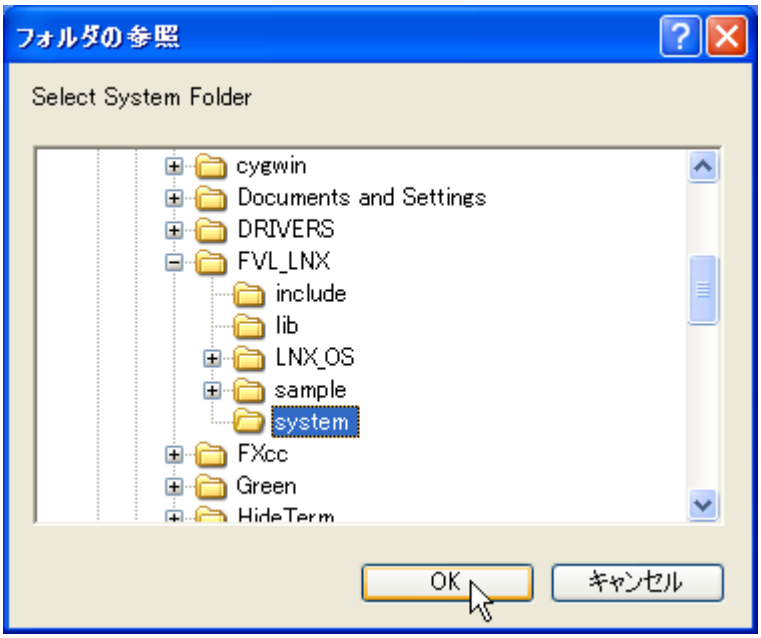
[画面 3]

次に、バージョンアップを実行します。[画面 4]のようにファイルメニューの「バージョンアップ」を選択します。選択すると[画面 5]のようなダイアログが表示されます。



[画面 4]

ここで、システムプログラムのファイルがインストールされているフォルダ(デフォルトでは C:¥FVL_LNX¥system)を選択し、「OK」をクリックします。

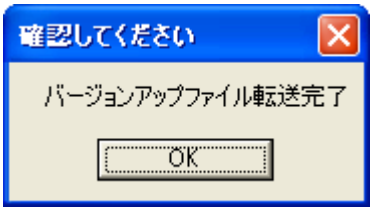


[画面 5]

[画面 6]のようなプログレスバーが表示され、システムプログラムの転送が実行されます。

[画面 6]

プログレスバーが消え、[画面 7]のようなダイアログが表示されたら「OK」をクリックして転送は終了です。



[画面 7]

転送が終了したら、画像処理装置を再起動してください。再起動したらバージョンアップは終了です。

2.7 アンインストールについて

2.7.1 ライブラリのアンインストールについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FVL/LNX をアンインストールします。

2.7.2 FXcc のアンインストールについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FXcc をアンインストールします。

2.7.3 FXcc IDE のアンインストールについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FXcc IDE をアンインストールします。

2.7.4 ホスト通信プログラム FVTerm のアンインストールについて

コントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を実行し FVTerm をアンインストールします。

3. 動作確認をしてみましょう

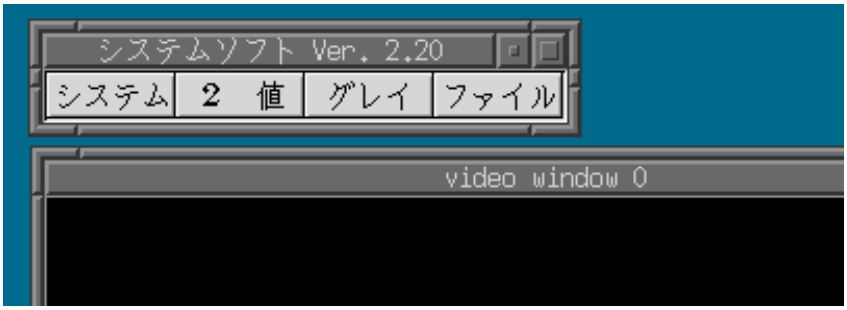
セットアップしたライブラリ、開発環境、ホスト通信プログラムが正しく動作するかを実際のユーザプログラム開発手順に則って試してみましょう。画像入力ボード FVC05 を搭載した画像処理装置 FV2300-LNX に、ソニー製 CCD カメラ XC-HR50 を接続した例を用いて画像入力および画像処理を行うサンプルプログラムを使用して、FVL/LNX が正しく動作することを確認する方法を解説します。

以下の手順で動作確認をしてみましょう。

①画像処理装置の設定(画像入力)
②画像処理装置の設定(通信パラメータ)
③ユーザプログラム開発用 PC の設定(通信パラメータ)
④サンプルプログラムのビルド
⑤サンプルプログラムの転送
⑥サンプルプログラムの動作確認

3.1 画像処理装置の設定(画像入力)

画像処理装置 FV2300-LNX にカメラを接続し、画像が入力できるか確認してみましょう。FV2300-LNX にカメラを接続(CH0)したら FV2300-LNX の電源を投入します。電源を投入してしばらくすると[画面 1]のようなシステムメニューが表示されます。ご購入後、最初に電源を投入する際は、英語表示となっています。「SYSP」->「Option」->「Language」->「Japanese」で日本語表示に変更することが出来ます。

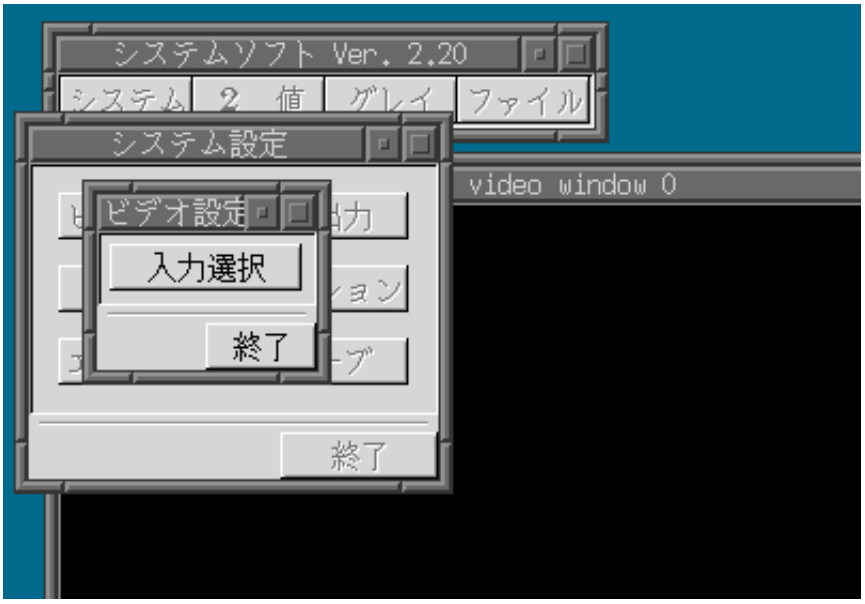


[画面 1]

システムメニューが起動したら「システム」をクリックします。表示が[画面 2]に進みます。

[画面 2]

次に「ビデオ入力」をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。



[画面 3]

次に「入力選択」をクリックします。表示が[画面 4]に進みます。

[画面 4]

接続しているチャネルを選択(ここでは 0)し、次に「実行」をクリックします。表示が[画面 5]に進みます。

[画面 5]

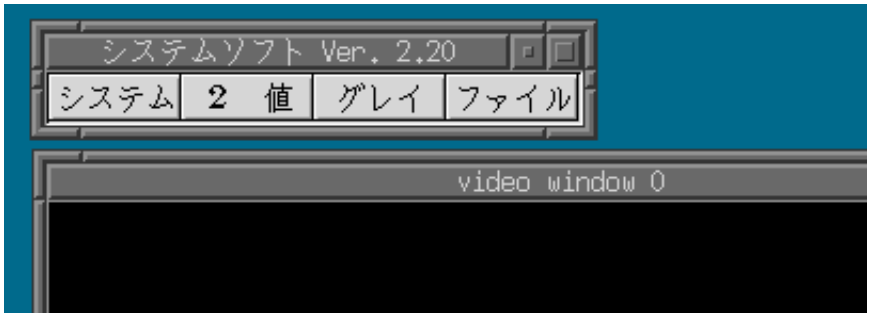
カメラを選択(ここでは XC-HR50_512_480)し「実行」をクリックすると「リセット後、有効です」とメッセージが表示されます。「終了」をクリックすると表示が[画面 3]に戻りますので、ここでも「終了」をクリックします。表示が[画面 2]に戻りますので、ここでも「終了」をクリックしてください。
その後、FV2300-LNX の電源を切り、しばらくして再投入してください。
FV2300-LNX が再起動するとカメラからの画像がビデオウィンドウに表示されます。

ビデオ入力の設定の詳しい内容については「FVL/LNX 操作説明書」(B-001094)を参照してください。

3.2 画像処理装置の設定(通信パラメータ)

ビデオ入力の設定が完了したら、通信パラメータの設定を行いましょう。ユーザプログラム開発用 PC で作成したユーザプログラムを FV2300-LNX に転送するためには、通信の設定が必要です。ここでは、RS232C を用いたシリアル通信の設定について説明します。

ユーザプログラム開発用 PC の COM ポートと FV2300-LNX の COM ポートをシリアルケーブルで接続し、FV2300-LNX の電源を投入します。電源を投入してしばらくすると[画面 1]のようなシステムメニューが表示されます。



[画面 1]

システムメニューが起動したら「システム」をクリックします。表示が[画面 2]に進みます。

[画面 2]

次に「入出力」をクリックします。表示が[画面 3]に進みます。

[画面 3]

次に「RS-232C」をクリックします。表示が[画面 4]に進みます。

[画面 4]

接続しているチャネルを選択(ここでは 0)し、次に「実行」をクリックします。表示が[画面 5]に進みます。

[画面 5]

通信パラメータを設定します。ここでは、

ボーレート　　: 19200
データビット　: 8
ストップビット : 1
パリティ　　: なし
X パラメータ　: RSCS

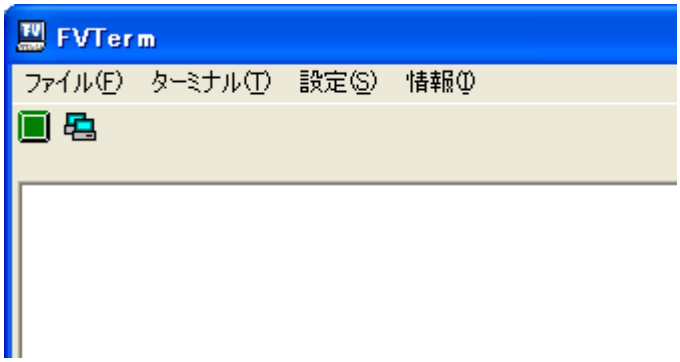
に設定しています。設定したら「実行」をクリックします。クリックすると表示が[画面 3]に戻りますので、ここでも「終了」をクリックします。表示が[画面 2]に戻ります。設定したパラメータを保存したい場合には、「セーブ」をクリックします。セーブ後、「終了」をクリックして設定は終了です。

通信パラメータ設定の詳しい内容については「FVL/LNX 操作説明書」(B-001094)を参照してください。

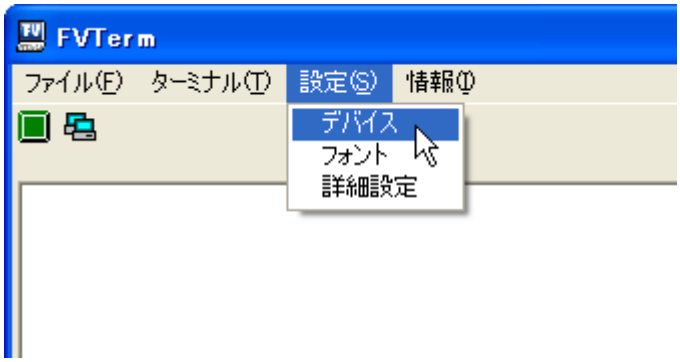
3.3 ユーザプログラム開発用PCの設定(通信パラメータ)

画像処理装置の通信パラメータの設定を行ったら、ユーザプログラム開発用PCの通信パラメータを設定しましょう。ホスト通信プログラムFVTermを起動し、シリアル通信の設定を行います。

FVTermを起動すると表示が[画面1]のようになります。



[画面1]



[画面2]

[画面2]のようにメニューバーの「設定(S)」の「デバイス」を選択すると[画面3]のダイアログが開きます。

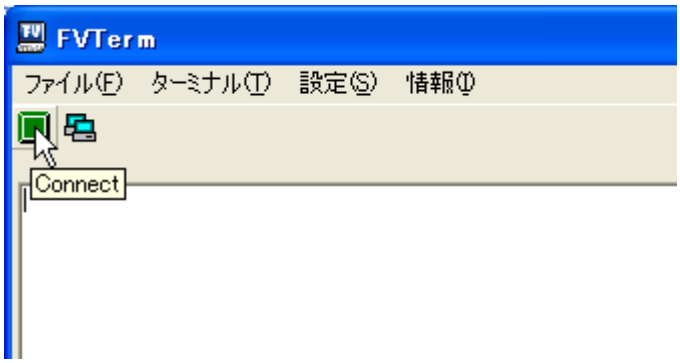
[画面3]

[画面 3]の「PC 設定」で実際に接続する COM ポートを選択します。次に「設定」をクリックします。クリックすると[画面 4]のダイアログが開きます。

[画面 4]

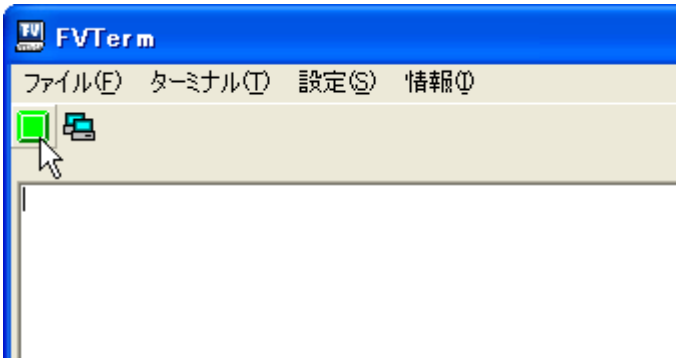
「3.2 画像処理装置の設定(通信パラメータ)」で設定したパラメータと同じ値に設定します。設定したら「OK」をクリックします。表示が[画面 3]に戻りますので、「閉じる」をクリックします。

画像処理装置と接続してみましょう。
FV2300-LNX の画面表示が起動時のメニューであることを確認し、[画面 5]のように FVTerm のツールバーの左端の緑のインジケーターをクリックします。



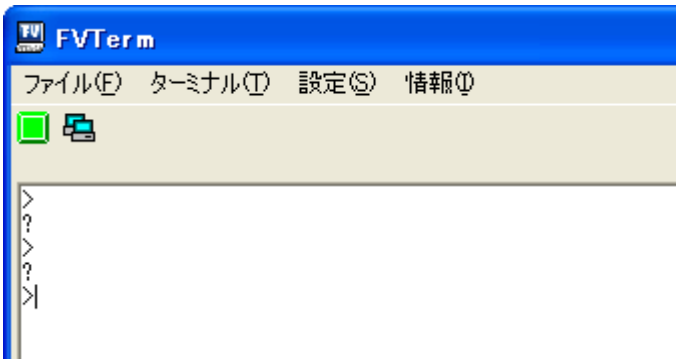
[画面 5]

[画面 6]のように緑が点灯したらキーボードのリターンキーを数回押下します。



[画面 6]

[画面 7]のようにリターンキーを押下するとプロンプトが表示され、“？”が受信されれば正しく接続されています。



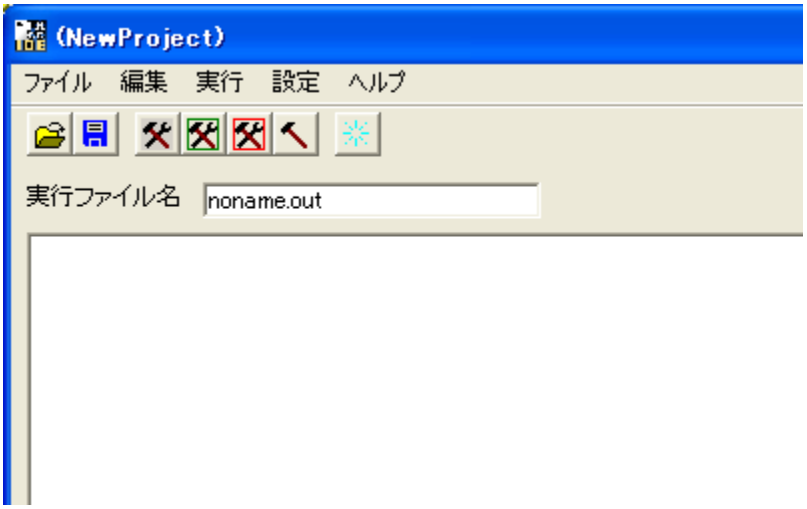
[画面 7]

なお、設定の詳しい内容については「FVTerm 操作説明書」(B-001077)も参照してください。

3.4 サンプルプログラムのビルド

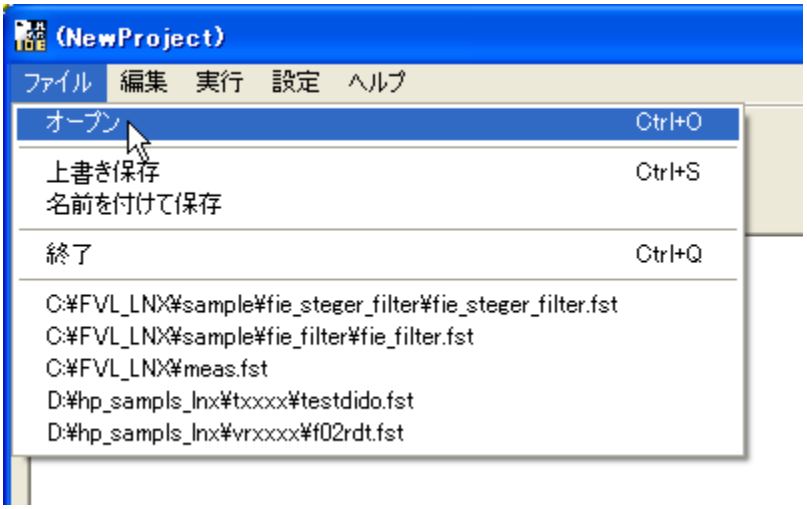
ライブラリのセットアップ時に同時にインストールされるサンプルプログラムを実際にビルドしてみましょう。ここではフィルタ処理を実行するサンプルプログラムをビルドする例で説明します。

FXcc IDE を起動します。FXcc IDE を起動すると表示が[画面 1]のようになります。



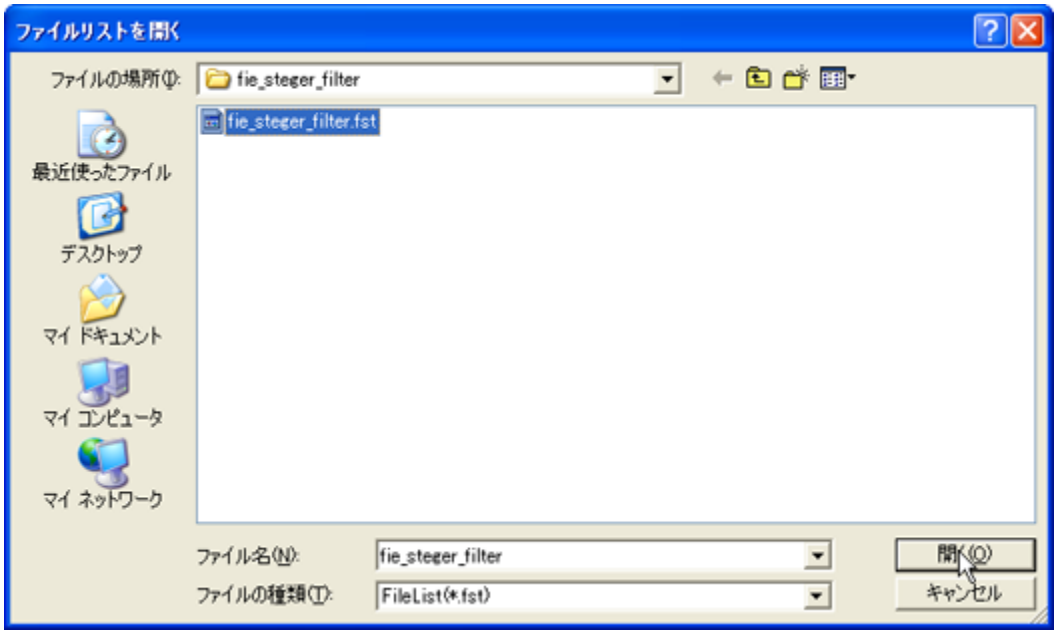
[画面 1]

次にサンプルをビルドするためのプロジェクトファイルを開きます。



[画面 2]

[画面 2]のようにファイルメニューからオープンを選択すると[画面 3]のようなダイアログが開きます。



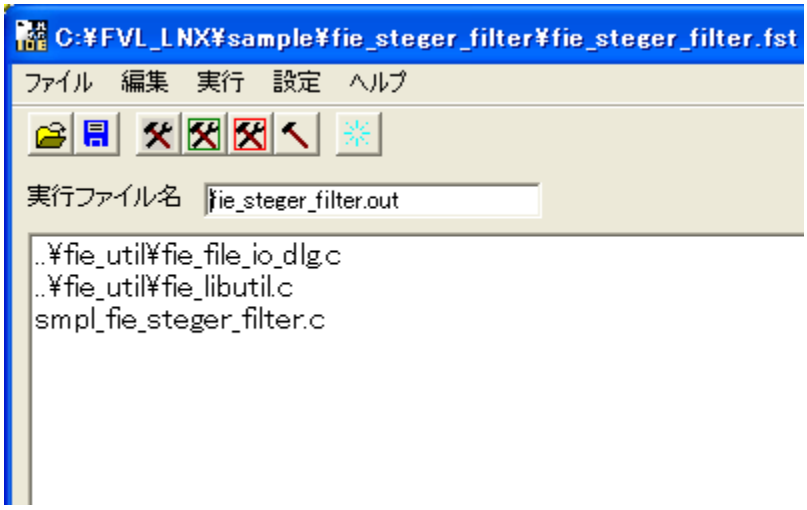
[画面 3]

プロジェクトファイルを選択します。ここでは、以下のプロジェクトファイルを

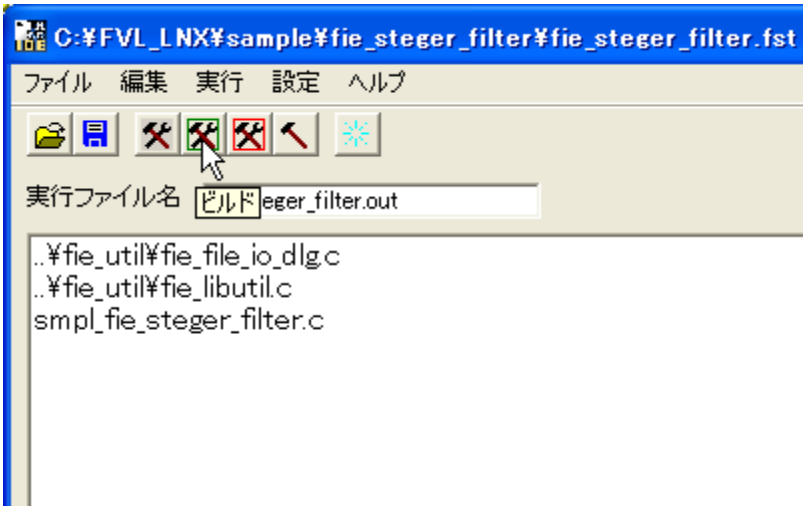
C:¥FVL_LNX¥sample¥fie_steger_filter¥fie_steger_filter.fst

を開きます。

プロジェクトを開くと表示が[画面 4]のようになります。

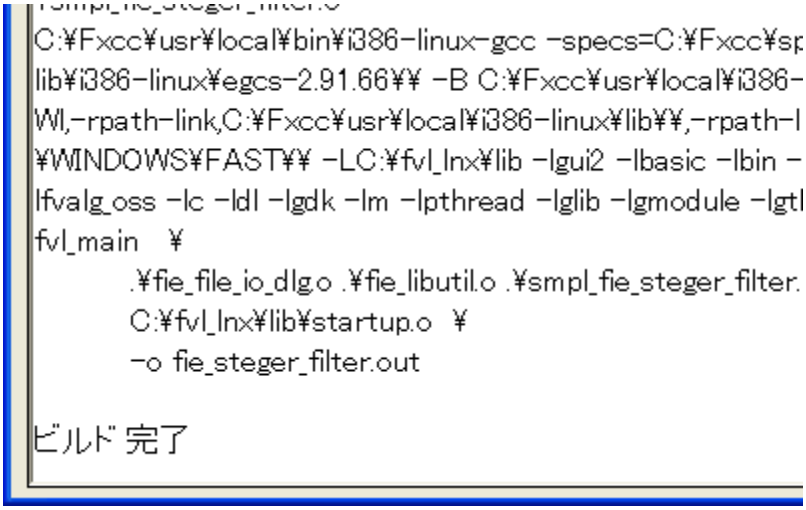


[画面 4]



[画面 5]

[画面 5]のようにツールバーの「ビルド」をクリックします。ビルドが開始されます。



[画面 6]

ビルドが完了すると[画面 6]のようにFXcc IDEの結果表示ウィンドウに「ビルド完了」と表示されます。
ビルドが完了すると以下の実行ファイルが生成されています。

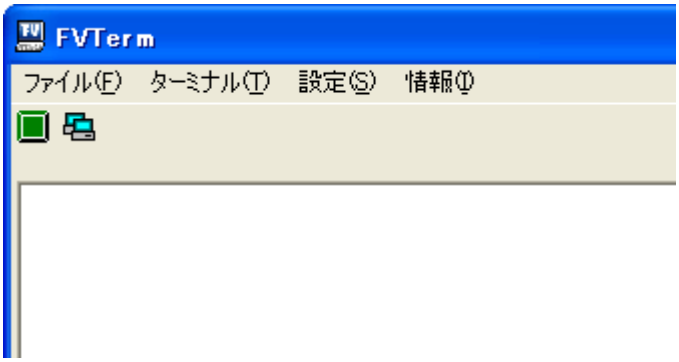
C:¥FVL_LNX¥sample¥fie_steger_filter¥fie_steger_filter.out

なお、FXcc IDEについての詳しい説明は「FXcc,FXcc IDE操作説明書」(B-001076)を参照してください。

3.5 サンプルプログラムの転送

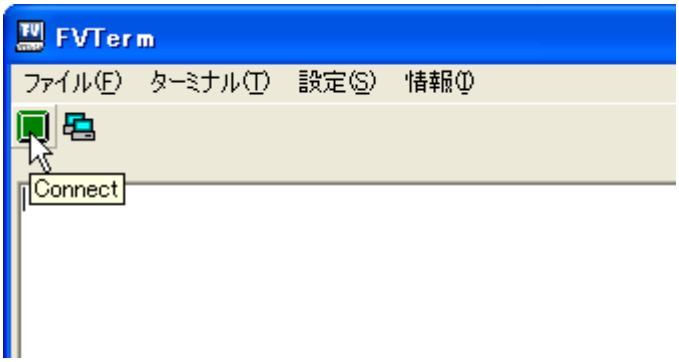
ビルドが完了したら、サンプルプログラムを FV2300-LNX に転送しましょう。ホスト通信プログラム FVTerm を使用して転送します。

FVTerm を起動すると表示が[画面 1]のようになります。

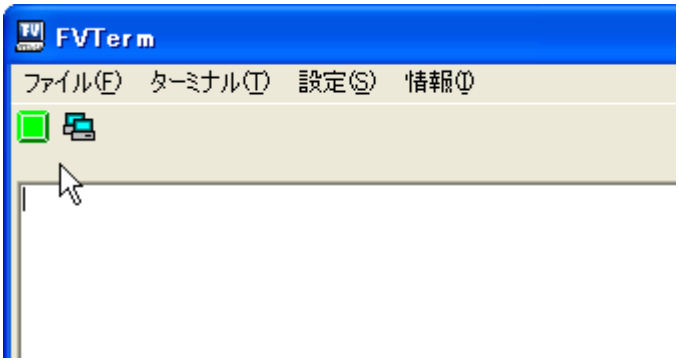


[画面 1]

FVTerm が起動したら FV2300-LNX と接続します。接続するには[画面 2]のようにツールバーの左端のボタンをクリックします。接続が完了すると[画面 3]のようにボタンが点灯します。

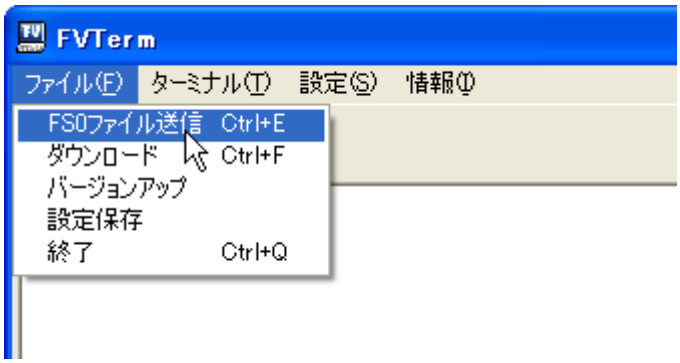


[画面 2]

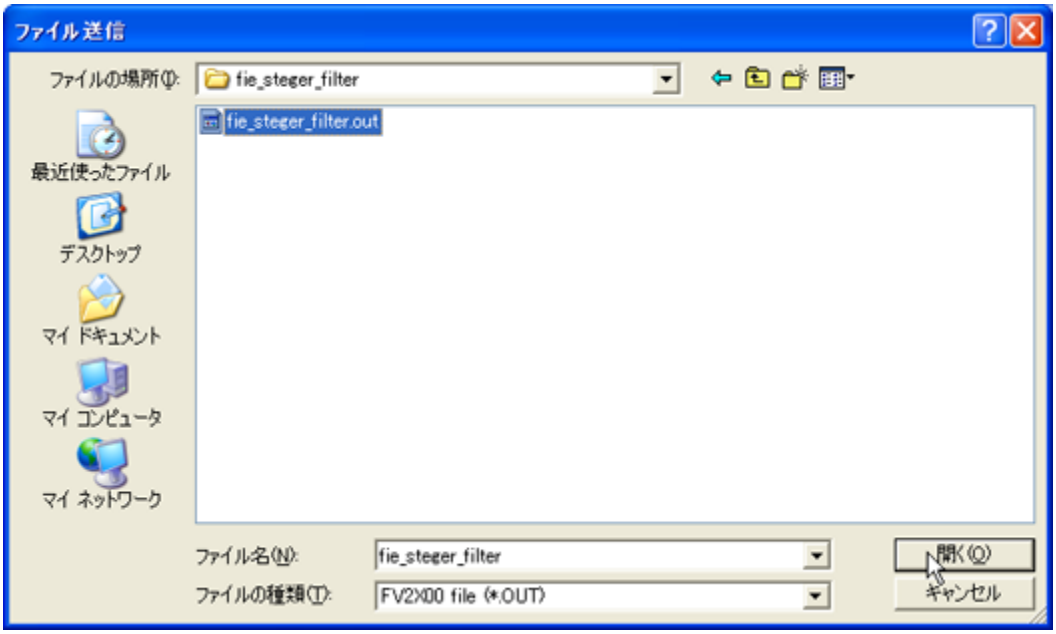


[画面 3]

次に、転送するファイルを選択します。[画面 4]のようにファイルメニューの「FS0 ファイル送信」を選択します。選択すると[画面 5]のようなダイアログが表示されます。



[画面 4]

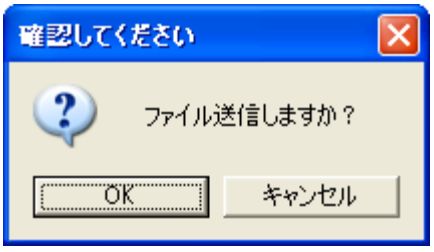


[画面 5]

ここで、ビルドした以下のファイルを選択し、「開く」をクリックします。

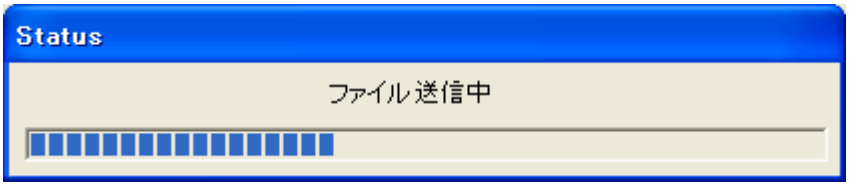
C:¥FVL_LNX¥sample¥fie_steger_filter¥fie_steger_filter.out

「開く」をクリックすると[画面 6]のようなダイアログが表示されます。



[画面 6]

ここでは、「OK」をクリックします。



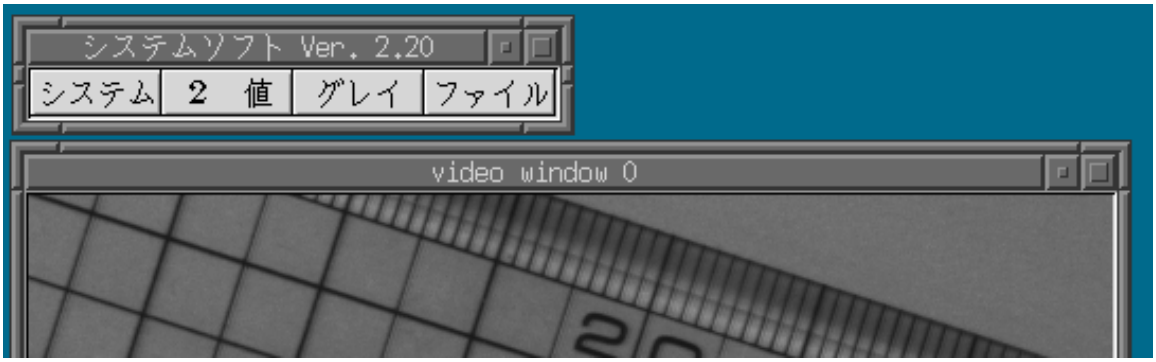
[画面 7]

[画面 7]のようなプログレスバーが表示され、サンプルプログラムの転送が実行されます。プログレスバーが消えたら転送は終了です。

なお、設定の詳しい内容については「FVTerm 操作説明書」(B-001077)も参照してください。

3.6 サンプルプログラムの動作確認

FV2300-LNX に転送したサンプルプログラムを実行してみましょう。
[画面 1]のシステムメニューより、「ファイル」をクリックします。[画面 2]のファイルメニューが開きます。

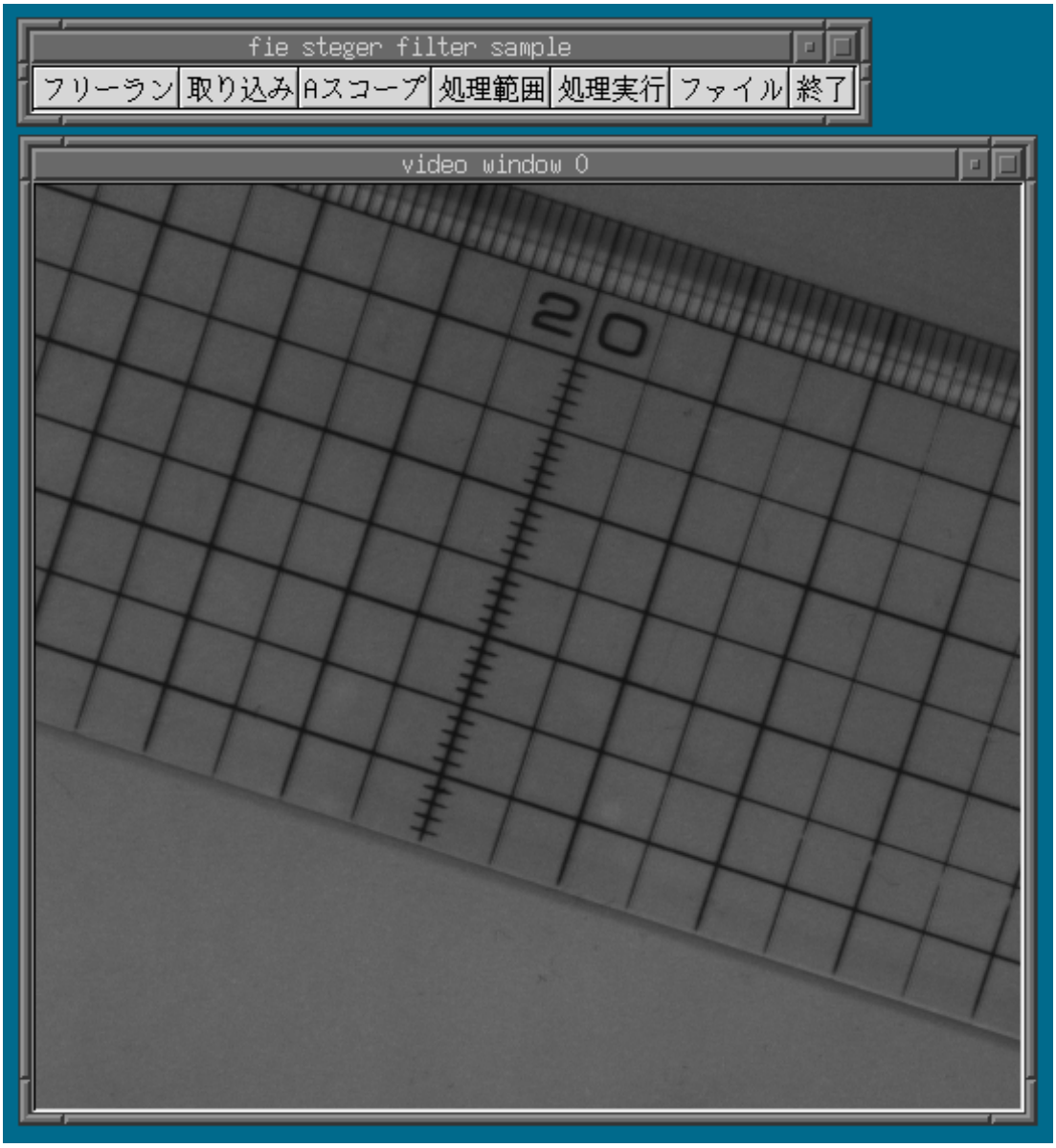


[画面 1]

ファイルメニューより転送したサンプルプログラム fie_steger_filter.out を[画面 2]のように選択し、「即実行試行」をクリックします。

[画面 2]

サンプルプログラムが実行され、[画面 3]のようにサンプルプログラムのメニューが開きます。

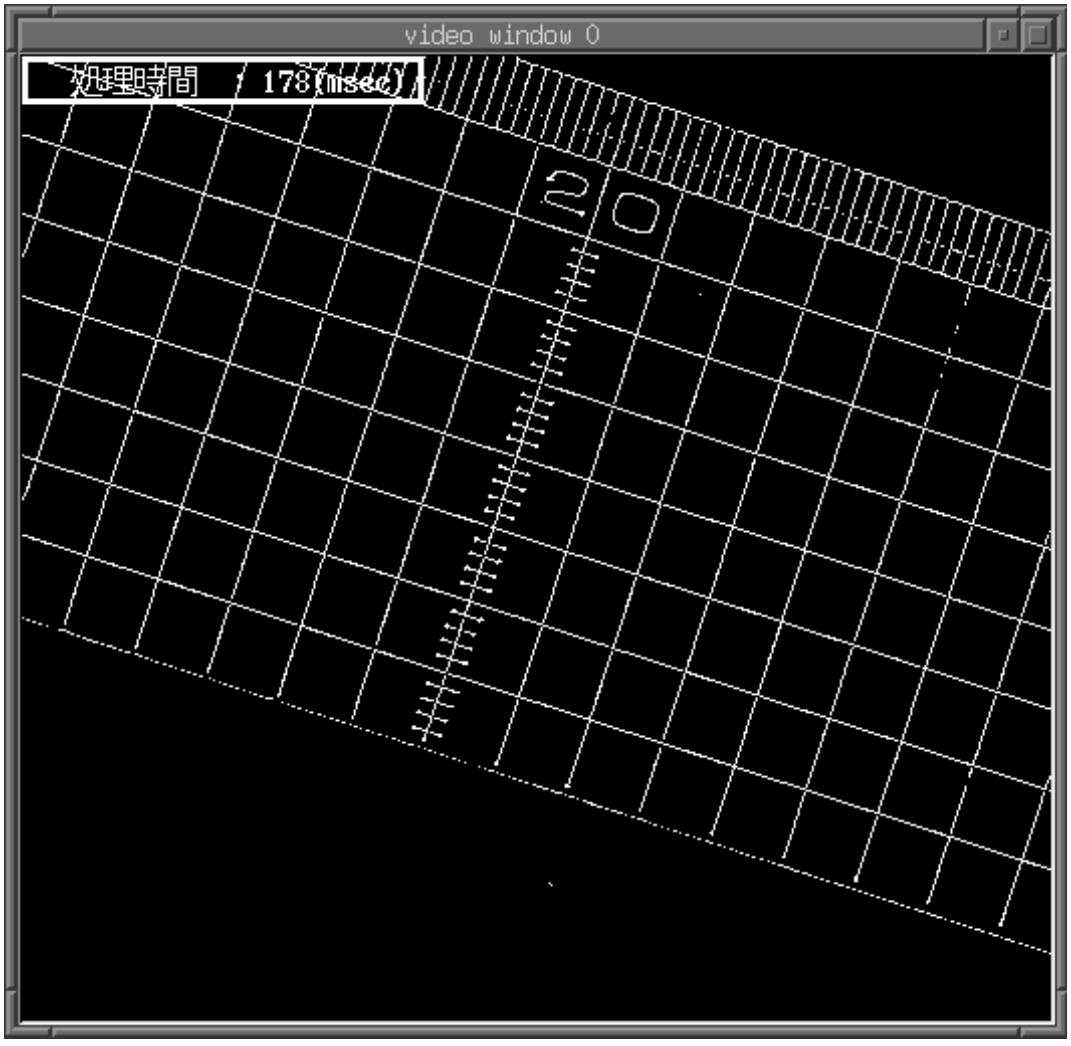


[画面 3]

まずは、画像を入力しましょう。「取り込み」をクリックします。カメラから画像が入力されビデオウィンドウに入力された画像が表示されます。
次に、入力画像に対して画像処理を実行してみましょう。「処理実行」をクリックします。[画面 4]のように処理実行メニューが開きます。

[画面 4]

処理実行メニューで「実行」をクリックすると画像処理が実行され、[画面 5]のように処理の結果画像がビデオウィンドウに表示されます。



[画面 5]

4. 困ったときは

FVL/LNX のセットアップや動作確認で問題が発生した場合には以下の内容をご確認ください。ご確認いただいても解消されない場合は、ユーザサポートまでお問い合わせください。

4.1 トラブルシューティング

(1)画像処理装置と開発用 PC 間で通信ができない

シリアルケーブルが接続されているかをご確認ください。画像処理装置や PC はシリアルポートが複数あるものもあります。お使いになるポートに確実にケーブルが接続されているかを確認してください。

また通信パラメータも確認してください。画像処理装置側と開発用 PC 側で通信のパラメータ(ボーレート等)が一致している必要があります。

(2)画像処理装置へユーザプログラムを転送している途中で通信が止まってしまう

通信パラメータを確認してください。画像処理装置側と開発用 PC 側で通信のパラメータ(ボーレート等)が一致している必要があります。

4.2 ユーザサポートについて

弊社製品につきましてのお問い合わせはユーザサポートにて承ります。ご質問の内容に下記の必要事項をお書き添えいただき、e-mail、FAX もしくは TEL にてお問い合わせください。

- 御社名
- 部署名
- お名前
- ユーザ登録番号
- 機種名またはライブラリ名
- システムおよびライブラリのバージョン

e-mail でのお問い合わせ　　: support@fast-corp.co.jp
FAX でのお問い合わせ　　: 046-272-8692
TEL でのお問い合わせ　　: 046-272-8691
受付時間 : 月曜日～金曜日(祝祭日および弊社指定の休日を除く)
9:00～12:00　13:00～17:00

◆ソースファイルの添付についてのお願い◆

作成されたプログラムがハングアップしてしまう等のトラブルを抱えたお客様より、ソースファイルが添付された e-mail をいただくことがありますが、まずは以下のような詳しい状況をご説明いただき、ユーザサポートまでご相談ください。サポートの過程で弊社にてソースファイルの解析が必要だと判断した場合には、ソースファイルの添付をお願いしております。

- お使いのライブラリ製品の名称
- お使いのシステム、ライブラリのバージョン
- プログラムのどの部分（どのライブラリ）でハングアップするのか細かい情報
- 問題の部分に関連のあるライブラリなどの戻り値は正常終了しているか
- 発生頻度

FVL/LNX 導入の手引き Vol.1
セットアップ編

2008年10月第1版発行

発行所　　株式会社ファースト

本　　社　〒242-0001　神奈川県大和市下鶴間2791-5

ユーザ・サポート　FAX：046-272-8692
E-mail：support@fast-corp.co.jp

B-002070